

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点をただし、所見を伺うことです。



柏倉恵里子 議員

町内に循環型バスを走らせては 5



村川 毅 議員

人口減少問題に取り組む
「長万部町創生総合戦略」について 6

定例会2日目、2人の議員より一般質問が行われました。
その内容を要約してお知らせします。

※全文は町ホームページからご覧になれます。

[町ホームページトップ](#) → [町議会](#) → [会議録](#)

町内に循環型バスを走らせては

(町長) 現時点では考えていない

柏倉 1年前の3月定例会でも一般質問したが、町内を循環する交通手段が必要だ。町民からは月1回の運行では用が足りず、また、帰りのバスまでに時間がありすぎるとの声が聞かれる。

前回の答弁では、老人福祉バスに職員を乗せて運行コースと利用頻度の研究をしているとのことだったが、その結果はどうだったのか。また、新たな取組を考えているのか。

町長 研究の結果については、老人福祉バスに職員が同乗し、7路線の利用人数や停車場、運行時間、利用者の意見などを調査した。その結果、平成30年4月から、双葉・蔵岱方面、静狩方面の路線にならない、国縫方面の2路線に町立病院、長万部駅、役場の3カ所の停車場を追加した。その後も利用者の要望

により、国縫地区において9月には停車順序の変更、11月には停車場およびルートの変更、陣屋・高砂・温泉地区においては12月に停車場およびルートの変更を行っている。

新たな循環型バスの導入については、現時点では考えていない。しかしながら、高齢者が増加する中で、交通手段の確保は切実な問題だと認識しており、長万部町全体の交通体系について検討していかなければならないと考えている。

柏倉 月1回の老人福祉バスには、月平均どのくらいの利用者があるのか。

保健福祉課長 平成29年度福祉バスの利用実績は、豊野方面(豊野・南栄・新開)は平均4・3人。蔵岱方面(蔵岱・知来・双葉・美畑・栗岡)は平均9・3人。共立方



静狩方面の老人福祉バス利用者

面(共立・栄原・旭浜・元町・本町・大町・曙)は平均4・6人。静狩方面は平均16・8人。豊津方面(豊津・豊野・花岡・中ノ沢・大浜)は平均10・4人。国縫方面は平均9・7人。陣屋方面(陣屋・温泉・高砂)は平均1・9人である。

柏倉 少ない利用者の中から出た意見だけで、老人福祉バスを回している。4月からの老人福祉バス利用のチラシも入ったが、役場や病院に停まることは一切書いていない。

町長 老人福祉バスの使命は、老人福祉センターを活用していただくことが主の利用の目的であるために、一般の町民の方々がほとんど乗れるかといえそうではない。

柏倉 なので循環型バスを導入してほしいと質問している。

町長 行政が有料の路線バスや循環型バスを運行するとすると、陸運局の許可が必要になる。また、タクシーチケットとの整合性も必要である。

もう少し各町内会の情報を我々が共有し、方法が変えられるのであれば、町民の利便性、高齢者のサービスに努めて改善することは可能だと思っております。検討させていただきたい。



― 村川 毅 議員 ―

人口減少問題に取り組み 「長万部町創生総合戦略」について

(町長) 第2次5カ年計画でさらに強化を目指す

村川 人口減少問題は全国的な問題だと手をこまねているわけにはいかない。

町は2015年、人口減少に歯止めをかけ地域活力を維持していく各種政策を掲げる「長万部町まち・ひと・しごと総合戦略」の策定・推進に向けた基礎資料として、「長万部町人口ビジョン」を策定。現在、2015年から2019年までの5年間を戦略期間とした「長万部町創生総合戦略」を推進している。「長万部町人口ビジョン」では、本町の人口は2040年に3566人に、さらに、国立社会保

障人口問題研究所の推計によると、2045年には2750人となるとされ、予想以上の減少に驚いている。

5カ年戦略の実効性を発揮するため、実際の評価や分析においてのプロセスや実施状況は。

町長 取組シートを担当課で作成し、検証機関としてのまちづくり推進会議の「地方創生部会」において、(※)KPI達成に有効かどうかの評価を行っているところである。町では、2020年度から2024年度までの5カ年を第2次長万部町創生総合戦略の期間として位置づけ、人口ビジョ

ンを見直しながらさらなる人口減少対策の強化を目指して戦略の評価・見直しを行う。

(※)KPI 目標の達成度を評価するための主要業績評価指標

村川 すでにKPIを達成した施策はあるか。

書ぞり新幹線 地域の素材を活かした特産品開発と6次産業化の推進という目標に対し、川瀬チーズ工房さんが生産・営業開始したことにより達成。地域おこし協力隊の活用と定住化の促進の取組で、協力隊の定住人数目標1人に対し2人の定住が達成。中学生までの医療費無

料化の取組として、子育て世代の医療費負担軽減の継続。

バス路線の確保・維持の取組として、地域間幹線系統の確保・維持の3路線を継続。

北渡島檜山北部4町連携推進の取組として、4町連携での新規事業の創出目標1件に対し2件を達成。などが、すでにKPIを達成した主な取組である。

村川 先日、地域おこし協力隊の活動報告会があり、任期終了した2名が町に定住するという嬉しい話を聞いた。今後、協力隊事業を継続するの

か。

町長 任期終了となる3名のうち2名が定住をすることになり、1名が本町にゲストハウスを開設するため準備を進めている。保健所への届出や建物の利用など、諸問題の解決に少し時間がか



地域おこし協力隊による報告会

かっているが、所有者の協力もいたいただきながら早めの開所を目指しており、そこから新たな情報の発信をしたり、長万部に人材を取り込みたい、とのことである。また、昨年6月に新たに協力隊員となった1名は、酪農業で一生懸命努力されている。今後も、協力隊員が入ることにより町の空気が変わるだろうと思っ

るので、また募集をする。今度はこの事業にむける協力隊員を要請するか、今後も継続して検討していきたい。